おそらく風向きの真すぐ当る中腹でもっとも大きく，つづいて両側面に大きくなるのではないか．

山本・私の経験によると，風が吹きつける真正面の所は一たん止まるように圧縮され，それから両側面にわかれて強く吹きぬけるような気がする．雲の動きをみてもそう考えられる．

吉川・気圧の変化はどうか．

山本・富士山頂の気圧変化はすごく振動してしまってよくわからない．風の息が強く出すぎるようだ．

吉川・谷川岳の例では，寒気流が上昇する所では気圧が上るが，暖気が下るところでは下る．

10. 登山時期の選び方の1例　東管調査課　**村越　望**

南極探険のような国家的事業ですら，その時期を選ぶ．アムンゼンとスコットの記録でも夏を境に2，3ケ月がもっともよい時期だそうだ．またヒマラヤも1年に2回の適期があるということも今の定説である．私は日本の冬山でも登山の適期があるといいたい．

たとえば鹿島一赤岩尾根一鹿島槍の同じコースを，違う月に登ったパーティの所要時間をみてみよう．1つのパーティは女性1名を含む5名，積雪は20cm位，もう1つのパーティは男性のみ8名，胸までのラッセルだった．その結果，前者は4日間でさほどの労力なく登頂出来たのに，後者は6日間を要して稜線までがやっとだった．同じ行程を登るのに一方が2，3時間，他方は5時間もかかっている．これは積雪量多く，ラッセルで苦労するためである．

積雪分布図をみると，積雪量は大体地形に応じて増減しており，白馬一唐松の稜線が5mのとき，八方，遠見尾根4mと等深線は標高とともに少くなっている．また八方と遠見尾根とでは八方の2000mのところが4mなのに，赤岩では同じ高さの所でも3mとへっている．赤岩尾根の積雪状態を10月1日から1月10日にかけて推定してみよう．すると大谷原11月中旬，鹿島槍稜線10月中旬頃に根雪になるとみられる．そして次第に多くなるが急激に雪が多くなるのは12月以降である．それ故冬山というと正月休みに集中するが，それより1ケ月ほど登山時期を早めれば雪も結構あるし，かといって，さほど多くて苦労するというほどでなく比較的楽しく行ける．各自の力に応じて冬山の登山時期は選ぶべきである．

（文責　奥山）

昭和38年度はこの他，以下の研究会例会が開催された．

○第14回研究会例会

昭和38年9月27日（金）気象庁中村記念館

1. 夏の北アルプスの気象観測
　　溪峰山岳会　林　幸司
2. 航空写真による38．1月北陸豪雪の積雪分布
　　国土地理院　五百沢智也，羽田野誠一
3. 底雪崩の発生機構
　　鉄道技研塩沢実験所　荘田　幹夫

○第15回研究会例会（ヒマラヤの気象）

昭和38年12月6日（金）気象庁中村記念館

1. ムクト・ヒマールの気象
　　日大山岳部OB　菅原　省司
2. バルトロ・カンリの気象
　　① 東大隊副隊長　渡辺　兵力
　　② トージョーウェザー　東条　貞義
3. ヒマラヤの気象（第1報）
　　気象庁　奥山　巖

○第16回研究会例会

昭和39年3月5日（木）気象庁中村記念館

1. 北海道学芸大の大雪山遭難について
　　研究会々長　広瀬　潔
2. ヨーロッパにける山岳気象研究の現状，およびスイスローヌ谷における谷風の範囲について
　　東京教育大　吉野　正敏

（350頁より）

本部理事長へ要望書送付

先の総会の決議にもとずき，第1回常任理事会で文案を検討したうえ，7月1日付で本部理事長宛に次のような要望書を送付した．

要　望　書

昭和39年5月28日大阪で開催された日本気象学会関西支部総会に於ける決議に基いて次のように要望します．

1. 昨年中国学術代表団の顧震潮教授を迎えて当支部としても大きな成果がありました．日中友好協会の議定書により，今年10月訪中学術代表団の派遣が決定していますが，この派遣団に気象界の代表も加わるよう積極的に努力して頂きたい．
2. 気象庁が現在とりあげている業務再編成・機構改革のうち観測網の再編成や調査研究体制等の問題は気象学会としても関心が深いので立案に際しては，気象学の研究者者の意見も充分とり入れられるよう理事長名で，気象庁長官に申し入れて頂きたい．

（363頁へ続く）